

埼玉医科大学病院ニュース

CONTENTS

①ロコモ・フレイルを予防し、健康寿命を延ばす！：

救急科・緩和医療科 教授 岩瀬 哲

②ゲノム医療科のご紹介：

ゲノム医療科／産婦人科 准教授 難波 聡

③日本の看護師を目指して：看護部

④検査一口メモ：中央検査部

⑤夏場に注意！！薬剤性光線過敏症！！：薬剤部

⑥検査一口メモ：中央放射線部

⑦入院食のご紹介 ～病院食について～：栄養部



—基本理念— 当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

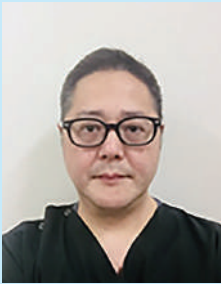
1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利

3. ご自分の希望を述べる権利

4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利



年齢が増加して、高齢者の医療保険給付が国の医療負担

令和元年5月7日より埼玉医科大学病院「高齢者総合診療センター」（東館2F）に「ロコモ・フレイル外来」がオープンしました。

「ロコモ」とは骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、歩行や立ち座りなどの日常生活に障害を来している状態のことを云います。ロコモが進行すると要介護や寝たきりになるリスクが高くなります。「フレイル」とは体がストレスに弱くなっている状態のことを云います。フレイルが進行すると生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります（図1）。

厚労省は2025年に65歳以上の高齢者人口が3,657万人（30.3%）、75歳以上の高齢者人口が2,179万人（18.1%）を超えると推計しており、もうすぐ日本は世界でも類をみない超高齢社会になります。そして、ロコモ・フレイルの高

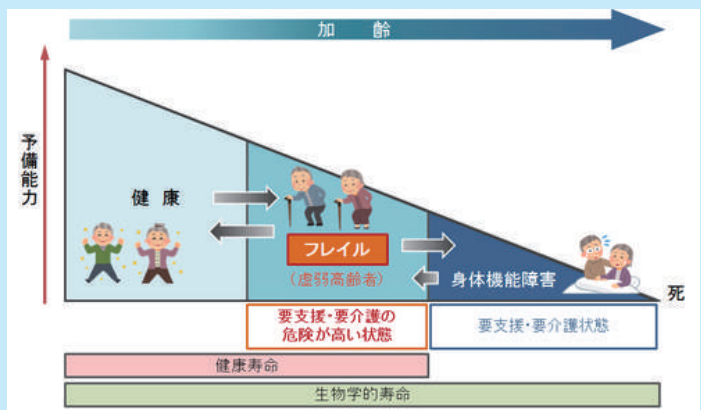


図1) フレイル概念図（葛谷雅文（2009）日本老年医学会雑誌を参考に一部改変）

を圧迫するようになります（2025年問題）。
このような背景から埼玉医科大学病院「ロコモ・フレイル外来」では2025年問題に備え、地域高齢者の「ロコモ」と「フレイル」を早期に同定し、地域高齢者の日常生活を支援して「ロコモ」と「フレイル」の予防を推進、地域高齢者の健康寿命を延ばして、個々と地域の医療費削減を目指しています。

ロコモ・フレイル外来では、要介護になる原因として最も頻度の高い認知症を評価し、ポリファーマシー（6種以上の多剤併用）を低減、栄養状態を評価してオーラル・フレイル（口腔機能低下）の診断と予防を考え、疼痛（関節炎など）の管理、地域の医療資源（デイサービス、デイケア、定期巡回随時訪問介護看護サービスなど）の有効利用を支援しています。

ロコモ・フレイル外来の外来日

	午前	午後
月	×	○（岩瀬）
火	×	×
水	×	○（岩瀬）
木	×	×
金	×	○（橋本）
土	×	×

ロコモ・フレイル外来は、次のような所見を一つでも満たす高齢者を対象としています。随時対応しますので、お気軽にお問合せください。

〈ロコモ・フレイル外来受診基準〉

- ・ 痛いところがある
- ・ 体重が減少した
- ・ だるさ、疲労感がある
- ・ 食べられない
- ・ 眠れない
- ・ 活動量が減った
- ・ 歩くのが遅くなった
- ・ 筋力が低下した
- ・ 飲み込みが悪い
- ・ 物忘れをする
- ・ 医療施設をまとめた
- ・ 薬が多くて困っている
- ・ 健康不安がある
- ・ 健康相談がしたい

〈お問合せ〉

電話：049・276・1741

（プラチナ外来受付）

〈高齢者総合診療センター運営委員会〉

委員長：橋本正良

（総合診療内科教授）

副委員長：岩瀬 哲

（救急科・緩和医療科教授）



どのよう
病気のこ
を伝えら
よいかも悩
まれると思

ゲノムとは、遺伝子 (gene) と、全体を意味する genome を合わせた言葉で、DNA に含まれる遺伝情報全体をさします。つまり、ヒトのゲノムは人間の体をつくるための設計図のようなものです。ゲノムを調べた結果をもとにして、より効率的に病気の診断を行い、効果的な治療につなげていくのがゲノム医療です。近年、ゲノム医学研究の目覚ましい進歩により、病気とゲノムのかかわりがどんどん明らかになってきています。

埼玉医科大学病院のゲノム医療科では、なかでも先天性・遺伝性疾患、希少難病に対する遺伝医療 (遺伝学的診察、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査から新規治療法の提供まで) を中心に行っています。ご自身やご家族、お子さんに生まれつきや病気の病気がある場合、病名の確定そのものが困難であることも多く、また周りの人たちにどのよう病気のことを伝えたらよいかも悩まれると思



います。ゲノム医療科の外来では、臨床遺伝専門医が遺伝カウンセリングを中核とするメディカルスタッフと協力して患者さんの病歴、家族歴、身体所見、これまで行われた検査の結果などを総合し、必要に応じて遺伝学的検査を追加することで診断を行います。そうした遺伝子や染色体の検査はゲノム医療科で受けることができます。2018年度より、保険診療で可能な遺伝学的検査が増えていますし、保険適応がない検査についても当院では保険診療と同等の患者費用負担 (自費診療) で実施可能です。そして遺伝学的検査の結果をもとに認定遺伝カウンセラーとともに十分な時間をかけて遺伝カウンセリングを行います。遺伝カウンセリングを通じて、悩みや心配を解決する道筋を一緒に考えていくことになり

児領域や周産期領域を中心に診療を行ってきました。2016年4月には難病センターが東館2階に開設され、昨年度には県の難病診療連携拠点病院として認定されました。ゲノム医療科はこの難病センター内の遺伝子診療部の中核を担う診療科で、現在、ミトコンドリア病をはじめとする小児難病から成人の病気まで幅広い遺伝性疾患に対応しています。また、産婦人科で毎週水曜日に開設されている遺伝外来とも連携しており、母体血を用いた遺伝学的検査 (NIPT) や羊水・絨毛を用いた出生前診断が可能です。ミトコンドリア病や先天性代謝疾患、神経難病などの出生前診断も1年に4~5件ずつ行っています。さらに、耳鼻咽喉科では遺伝性難聴の、神経内科ではハンチントン病や筋緊張性ジストロフィー等の遺伝性神経筋疾患の、リウマチ膠原病内科では遺伝性免疫疾患の患者さんやご家族に対し、年間数例~20数例の遺伝子診療を行っています。

ここにあげたような病気についての遺伝カウンセリングに基づく遺伝学的検査の提供に関しては日本の

トップレベルにある診療科です。ご相談のある方、診療をご希望のかたは、以下の連絡先にお問い合わせ下さい。

連絡先・難病センター 遺伝子診療部
齋藤 恵、難波 聡、大竹 明
☎ 049 (276) 1741



右から 大竹明教授、
齋藤恵 (認定遺伝カウンセラー)、
難波聡 准教授

看護部

埼玉医科大学病院では、日本国政府とベトナム社会主義共和国政府との経済連携協定に基づき、日本国看護師免許の取得を希望するベトナム人の受け入れを行って3年が経過しました。この協定の第一義は、両国の経済活動の連携を強化する事が目的となっており、当院で受け入れたベトナム人は2016年度に2名、2017年度に3名、2018年度に3名と合計8名です。

ベトナムで看護師養成機関（専門学校や大学）を卒業し、一定期間の臨床経験を有した看護師が選ばれます。母国のベトナムで約1年間の日本語研修を受け、日本語検定を受けてから来日します。

初年度は手探り状態の支援でしたが、2年目は専任の看護師を配置し、3年目には候補生から「日本語をもっと教えてほしい」との要望を叶え、週に3日の日本語学習時間を設けました。病院あげての手厚い支援で、2018年に3名、2019年に5名と全員が合格しました。ベトナム人の看護師国家試験合格率は過去4年間で、平均47.9%なのです。が埼玉医科大学病院のベトナム人は

100%合格です。病院としても支援をしましたが、本人たちの頑張り《さすがだった》ことが分かっていただけだと思います。2018年から合格したベトナム人看護師が病棟で働いていますが、日本人の話すピードについていけない、文化や風習が分からないなどで苦労をしています。こんな場面がありました。昼食時にナースコールがありました。昼の所に行ったのですが「オレの飯は」

と聞かれ、そんな言葉を学習してきていないベトナム人看護師はちんぷんかんぷん、何度聞き返しても分からず先輩看護師を呼んだという事でした。

ベトナム人看護師が、日本の看護師として一人前に働くにはまだまだ時間が必要です。彼らが日本の看護を学び、その看護がベトナムで

活かせる日を楽しみにしたいものです。当院で治療を受けられる患者さんも、温かい目で見守っていただき日本の心を教えていただけると幸いです。



(2018年度合格の5名です)

ボランティアさん募集

病院ボランティアを募集しています！

資格や経験のない方でも健康で思いやりのある方であればどなたでも参加できます。

具体的な活動

- ・ 玄関やホールでの案内、誘導
- ・ 車椅子利用者の乗降時の援助
- ・ 各科の外来や検査室への案内
- ・ 自動再来受付機操作のお手伝いなど

活動の時期、時間、頻度

原則として、月曜日から土曜日（祝日を除く）午後8時30分から午後12時30分ごろまで
1回2時間以上活動が可能である事
(月1回でも可能)

お問合せ…

埼玉医科大学病院 医務部
☎ 049 (276) 1122

中央検査部

今回は神経生理検査を紹介しま

す。私達の全身の神経や筋肉は活動する時に微小な電流が発生します。神経生理検査はこの微小な電流を体の各測定部位で捉え、また外部刺激を与えて発生する神経や筋の活動状態を測定する検査です。

○検査の種類

いくつか種類はありますが、主に神経伝導検査、誘発電位検査、針筋電図検査などがあります。

神経伝導検査

手や足の末梢神経の機能を調べる検査です。神経障害の有無や障害がある場合は運動神経優位か感覚神経優位かを判断したり、障害がどの程度なのかを調べたりします。

脱力、麻痺、筋力低下がある場合は運動神経障害の可能性がります。

しびれ、痛みを感じる場合は感覚神経障害の可能性がります。

また、糖尿病など自覚症状がなくても末梢神経障害を起こすリスクの高い疾患に対して、病態を評価するために用いられたりします。

○検査方法

ベッドに仰向け、またはうつ伏せに寝て検査します。

上肢の検査は手首と肘部など、下肢の検査は足底と膝下部などに弱い電気刺激を加えて、その刺激の伝わる速さを調べます。

○留意点

神経を電気刺激するため、少し痛みを伴いますが、緊張して力が入らないようにリラックスして検査を受けて下さい。

誘発電位検査

脳、脊髄、末梢神経を通る感覚神経のどこに機能障害が存在するのかを調べたり、聴覚障害や脳幹障害の診断に用いられたりします。

○検査方法

ベッドに仰向け、または椅子に座って検査します。

頭、首、肩、背中などに電極を装着して、手首や足首に弱い電気刺激を加えて反応を記録します。

また、音刺激や光刺激などを行ったりもします。

○留意点

音刺激や光刺激は痛みを伴わない検査ですのでリラックスして検査を受けて下さい。力が入ると検査時間が長くなる場合があります。

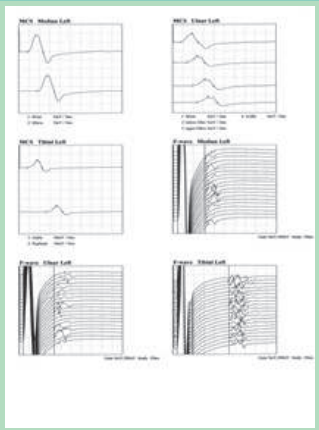
筋電図検査

筋肉に指令を出す運動神経系に障害があるのか、筋肉自体に障害があるのかを判断したり、障害の部位や程度を調べたりします。

○検査方法

筋肉に細い針を刺して、筋肉に力を入れたり、抜いたりして波形を記録します。

神経伝導検査の波形



○留意点

筋肉に針を刺すので、痛みを伴う検査ですが、専門の先生が行いますので安心して検査を受けて下さい。検査中は力を入れたり抜いたりしてもらっているので、患者さんの協力が必要となります。



検査室からのお願い

検査時間は30分〜60分程度ですが、障害部位や程度により長引くこともあります。

検査に遅れる場合は、検査室まで電話連絡をお願い致します。

直通 049 (276) 1445

検査希望の方は主治医にご相談下さい。



はじめに

今年も暑い季節がやってきました。夏になると気を付けなければならぬのが紫外線対策です。日本では7月～8月に一番紫外線量が多くなると言われています。また夏場は海や山など外で活動する機会も多く、それに伴い紫外線を浴びる機会も増えてきます。紫外線はUV・A波とUV・B波に分けられ、どちらもシミやシワなどお肌の老化原因になります。また、これらの紫外線は生体へ強い影響を与えることが知られており、肌表面の表皮細胞やDNA（遺伝子）を傷つけたり、異常な皮膚症状をきたす光線過敏症を引き起こしたりすることが知られています。したが、その中には、薬剤が関係して引き起こされる薬剤性光線過敏症もあり、薬剤を使用している方は、これからの季節は特に注意が必要です。

光線過敏症とは？

普通は何とない程度の紫外線を浴びただけで異常な皮膚症状がでてしまう光線過敏症。光線過敏症には代謝異常、化粧品、薬剤の服用、ビタミンやミネラルの不足といろいろな原因があります。また皮膚の症状も日焼けのように赤くなるもの、湿疹のようにかゆいブツブツができるもの、じんましんを起こすものなど様々です。今回はその中でも薬剤の使用によって引き起こされる薬剤性光線過敏症についてお話しします。

光線過敏症に注意が必要な薬剤！

薬剤を使用する事によって引き起こされる薬剤性光線過敏症には、塗り薬や湿布薬など、外用薬を用いた部位に日が当たってかぶれる「光接触皮膚炎」と、内服薬を服用後に外出し、日が当たった皮膚に発疹ができる「光線過敏型薬疹」の二種類があります。その原因となる主な外用薬には、湿布薬、塗り薬などの消炎鎮痛剤の一部があります。また、内服薬では、ニューキノロン系といわれる抗菌薬の一部、非ステロイド系消炎鎮痛剤の一部、降圧薬の一部、

糖尿病薬の一部、ある種の抗がん剤などがあります。このように薬剤性光線過敏症を引き起こす可能性のある薬剤は外用薬、内服薬と様々あるので注意が必要です。

薬剤性光線過敏症を防ぐには？

薬剤性光線過敏症を防ぐにはその原因となりえる薬剤を使用しないことが一番ですが、治療のために必要で、副作用として光線過敏症のある薬剤を使用する場合、症状が出なくとも長時間の日光曝露を避けることが重要となります。薬剤性光線過敏症の症状が出てしまった場合は、第一に原因と考えられる薬剤を中止すること、そして少なくとも1週間は外出時に長袖の衣類、帽子、手袋等を着用し日傘を利用するなど日光の曝露を避けることが必要です。また、光線過敏症の症状によっては、抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン剤の使用が必要になる場合もあります。しかし、疾患によってはその治療上、光線過敏症の原因と考えられる薬剤を安易に中止することが出来ない場合もあるので、自己判断での薬剤中止には注意が必要です。

最後に

様々な薬剤によって引き起こされる可能性のある「薬剤性光線過敏症」。特に紫外線の強まるこれからの季節には注意が必要です。また、紫外線は直射日光だけでなく地表面や建物からの反射も考慮しなければなりません。紫外線反射は草地では問題にならない程度ですが、コンクリートでは約6%、砂地が15%前後、水面は10～20%もの紫外線が反射されます。普段は何とない紫外線であっても薬剤を使用している場合、薬剤性光線過敏症によって皮膚障害が強く現れる場合もあります。薬剤性光線過敏症が疑われる場合は、かかりつけの医療機関へご相談ください。

連絡先…薬剤部

☎049(276) 1111



MRI検査において金属が与える影響について

MRI検査は強力な磁石を使った装置で、磁石の力と電磁波の照射により体の臓器や血管を撮影する検査です。

検査室に金属を持ち込むと磁石による強い力により引きつけられ（吸引）、金属が飛ぶなど大変危険です。吸引は金属によつてさまざまですが、最も注意しなければならぬのは強磁性体（鉄、コバルト、ニッケル）です。また、撮影による電磁波の照射により金属が発熱することがあります。アルミ箔など貼付剤等に含まれる金属類が発熱し、やけどを負う事故も発生しています。発熱に関して、導電性の高い金属ほど危険性が高く、すべての金属において発熱の可能性があります。（ただし、必ず熱くなるとは限りません。）

安全に検査を受けていただくために、検査室に入室する前に患者さんが身に付けている貴金属類や入れ歯など金属製品が持ち込まれないように事前チェックをさせていただきます。また、問診票にて手術により体内

に金属製の医療用具が入っていないか確認もしています。

実際に金属が画像にどのような影響を与えるか画像を見てみましょう。

図1の左の画像は歯科治療による

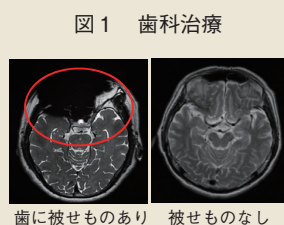


図1 歯科治療

歯に被せものあり 被せものなし

図2の左の画像は磁石式の入れ歯

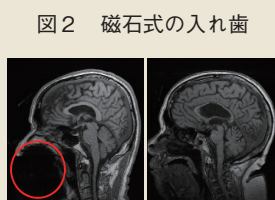


図2 磁石式の入歯

口腔内金属あり 金属なし

してはいますが、口腔内に金属があるため歯の部分の画像が黒く抜けています。通常の入歯も同様の画像になります。なお、磁石式の入歯は

装着したまま検査室に入ってしまうと消磁して使えなくなってしまうため、撮影部位が頭部や顔でなくても外すようお願いいたします。

図3の画像は矢印の部分に脳動脈



図3 脳動脈瘤クリップ

瘤手術によるクリップがありま

図4は膝関節の画像です。左の画像は手術

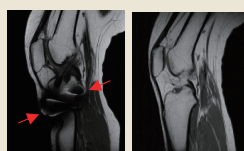


図4 手術後の金属(膝関節)

手術後金属あり 金属なし

は、本館地下1階に1台（1.5T）と

MRI棟に3台（1.5Tが2台、3Tが1台）の計4台のMRI装置があります。

※T（テスラ）は磁石の強さを表し、数字が大きいほど強い磁力となります。

磁石の強さが装置によって異なりますので、体内に金属のある場合や検査の内容によって検査室が限られてしまうことがありますのでご了承ください。

MRI検査を受けられる患者さんへ体内に金属性の医療用具がある場合、種類により検査を受けられないことがあります。

治療を受けた医師・医療機関に「金属医療用具の種類、挿入部位、時期」を「MRI検査に対応しているか」を事前に問い合せの上、主治医にお知らせ下さい。

また、検査当日に検査室で記入して頂く問診票にもご記入下さい。当院では安心、安全に検査が行えるように細心の注意をしています。

入院食のご紹介 ～病院食について～

栄養部

◆入院中の食事

入院中は主食・主菜・副菜を揃えた栄養バランスの良い食事を提供しています。

栄養士が基本となる献立を決め、そこから食事制限のある方に合わせ、様々な種類の食事へ調節しています。さらに1人ひとりの病態にあわせ医師からの指示栄養量や塩分量へ調整し、提供しています。

また、必要に応じて入院後栄養士が訪問し、アレルギーや宗教上の禁止等の調整も行っています。

◆調理の工夫

当院の食事は衛生面に於いて安全性の高い「クックチル」というシステムを採用しています。

「クックチル」とは、あらかじめ調理したものを急速冷却し、3度以下で保存して食事提供前に再加熱するという調理システムです。病院食には薄味のイメージがありますが、再加熱で味が染みこむため、少しの調味料でもしっかりとした味になり、美味しく召し上がっていただけるよう工夫しています。

◆献立作成のこだわり

献立作成から調理まで専門スタッフが全て院内で行っており、季節に合わせた地元の食材を利用し、手作りの料理を提供しています。また、塩分は1日8g未満の食事を目標とし、野菜は1日350g以上を目標としています。(厚生労働省が定める「日本人の食事摂取基準」に基づく)

栄養相談をご希望の方は、主治医にご相談下さい。個別相談を承ります。

◆果物・乳製品・汁物などを1日1回提供しています。
※塩分6g以下に汁物は付きません。
※食種によって乳製品は付きません。



◆主菜は、食事のメインになるおかずです。魚介類・肉類・卵・大豆・大豆加工品などを片寄りなく使用しています。調理法や味付けも和洋中を織り交ぜ、味が重ならないよう工夫しています。

◆副菜は旬の食材を使用し、薄味でもおいしく召し上がっていただけるよう、調理法で工夫しています。

◆主食は、食べにくい方にはおにぎりや軟らかいご飯、お粥の対応もしています。

◆行事食

季節に合わせて行事食の提供を行っています。

5月5日の子供の日など、祝祭日には行事に合わせた食事やおやつ、メッセージカードの提供を行っています。

◆産後特別メニュー

出産をされた方へお祝いの気持ちを込めて『産後特別メニュー』の提供を行っています。

◆有料特別メニュー

入院中は通常のメニューとは別に、日替わりのメニューを有料(追加負担額300円)でご用意しています。申込には主治医の許可が必要です。アレルギーのある方には提供しておりません。
※各病棟のデイルームに詳細のご案内があります。

行事食・子供の日
幼児食とおやつ



有料特別メニュー
中華定食
(エビチリ・豚の角煮)